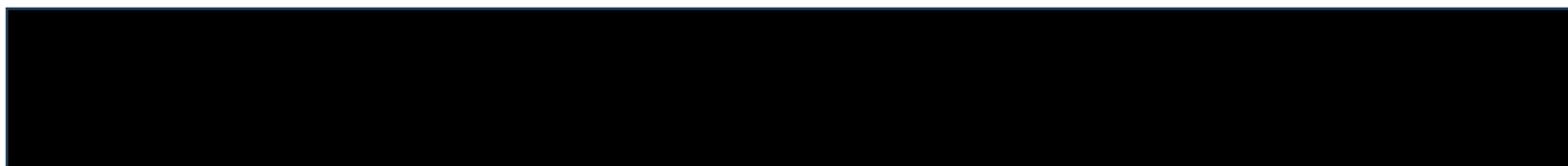


2025年度大学院博士前期課程一般入学試験（第Ⅰ期）問題

研究科名	科目名
教育学研究科 教育学専攻 教育学専修	教育学

以下の設問Ⅰ、Ⅱについて解答しなさい。

【設問Ⅰ】



問い：上記は、H. S. ベッカーによる「ラベリング論」の説明である。学校における「非行少年」への対応について、教師がラベリング論の発想を得ることの意義はどのようなことにあると考えられるかを論じなさい。

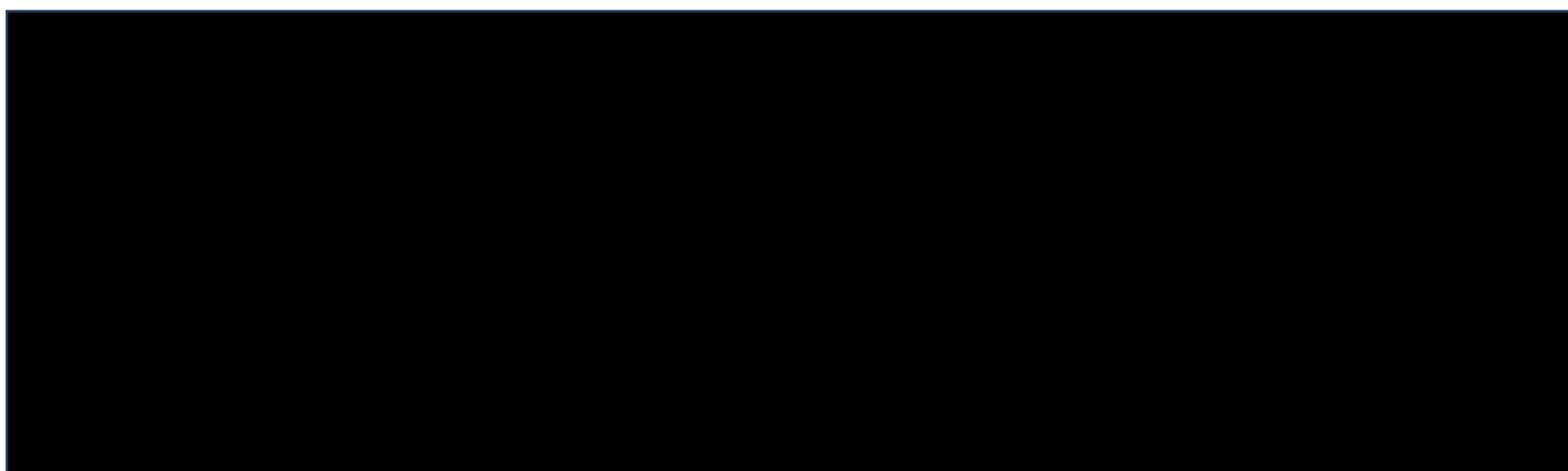
Becker, H. S., 1963, *Outsiders: Studies In The Sociology Of Deviance*, The Free Press.

(=1993, 村上直之訳『アウトサイダーズーラベリング理論とはなにか』新泉社, p. 17.)

*問題本文は著作権法上の理由から記載することができません。上記出展箇所をご確認ください。

【設問Ⅱ】

日本における近代学校制度に関する以下の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、出題者が文章に中略や下線を施している。



出典：鈴木眞理「学校による生涯学習支援」倉内史郎・鈴木眞理編著『生涯学習の基礎』学文社, 1998, pp. 116-117. (作題者によって本文を中略し、一部に下線を施した)

*問題本文は著作権法上の理由から記載することができません。上記出展箇所をご確認ください。

問い：下線部に示された内容を踏まえながら、日本における近代学校制度の問題点ならびにそれへの対応について論じなさい。

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

問題の性質上、解答や解答例ではなく、出題の意図にて説明する。

出題意図：

Purpose of Question：

【設問Ⅰ】

ラベリング論の基本的な考え方を理解した上で、学校における「非行少年」への対応という具体的な場面に即して、その意義を教師の視点から論理的に考察できるかを評価する。

【設問Ⅱ】

日本における近代学校制度の成立の背景を踏まえた上で、そうしたメリトクラシーに基づいた制度の問題点や対応策について論理的に説明できるかを評価する。

採点のポイント：

【設問Ⅰ】

1. ラベリング論の考え方をふまえ、「逸脱行動」がどのように理解される理論であるかを適切に押さえていること
2. 学校における「非行少年」への教師の対応のあり方と関連づけて論じていること
3. ラベリング論の発想を教師が得ることの意義について、生徒理解や指導・支援の観点から説明していること

【設問Ⅱ】

1. メリトクラシーに基づく近代学校制度の問題点を説得的に示していること
2. 日本の近代学校制度の問題点と対応の双方に言及していること